

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第33期第3四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	オプテックス株式会社
【英訳名】	OPTEX Company,Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 徹
【本店の所在の場所】	滋賀県大津市におの浜四丁目7番5号 （同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行って おります。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	滋賀県大津市雄琴五丁目8番12号
【電話番号】	077(579)8000(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員(管理本部長) 東 晃
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第3四半期連結 累計期間	第33期 第3四半期連結 累計期間	第32期 第3四半期連結 会計期間	第33期 第3四半期連結 会計期間	第32期
会計期間	自平成22年 1月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 1月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 1月1日 至平成22年 12月31日
売上高(百万円)	12,736	13,993	4,571	4,669	17,395
経常利益(百万円)	1,252	1,540	507	478	1,761
四半期(当期)純利益(百万円)	666	892	244	309	981
純資産額(百万円)	-	-	17,860	18,147	17,925
総資産額(百万円)	-	-	21,529	21,768	21,405
1株当たり純資産額(円)	-	-	1,008.22	1,026.78	1,016.57
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	40.27	53.94	14.77	18.68	59.30
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	53.92	-	18.67	-
自己資本比率(%)	-	-	77.5	78.1	78.6
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,484	1,079	-	-	1,818
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,179	1,316	-	-	1,212
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	339	549	-	-	379
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	-	-	6,169	5,422	6,343
従業員数(人)	-	-	1,218	1,164	1,127

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第32期及び第32期第3四半期累計(会計)期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### （1）連結会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数（人）	1,164（89）
---------	-----------

（注）従業員数は就業人員であり、臨時雇用者は、当第3四半期連結会計期間の平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

### （2）提出会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数（人）	268（21）
---------	---------

（注）従業員数は就業人員であり、臨時雇用者は、当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しており、前年同四半期比については、前年同四半期を新セグメント区分に組み替えて算出しております。

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	前年同四半期比(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	1,760	6.6
自動ドア関連(百万円)	851	24.9
その他(百万円)	154	25.4
計(百万円)	2,766	2.8
F A事業(百万円)	1,025	29.4
生産受託事業(百万円)	237	5.9
その他(百万円)	297	7.0
合計(百万円)	4,326	6.8

(注) 上記金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 商品仕入実績

当第3四半期連結会計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	前年同四半期比(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	53	34.0
自動ドア関連(百万円)	2	64.1
その他(百万円)	33	21.6
計(百万円)	89	22.8
その他(百万円)	0	383.4
合計(百万円)	89	22.8

(注) 上記金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当第3四半期連結会計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	前年同四半期比(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	-	-
自動ドア関連(百万円)	-	-
その他(百万円)	-	-
計(百万円)	-	-
F A事業(百万円)	-	-
生産受託事業(百万円)	174	85.2
その他(百万円)	70	51.6
合計(百万円)	245	74.1

- (注) 1. 上記金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。  
 2. 当社グループ(当社及び連結子会社)では、生産受託事業及びその他の事業を除き見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	前年同四半期比(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	1,972	4.7
自動ドア関連(百万円)	820	14.9
その他(百万円)	213	51.0
計(百万円)	3,006	9.7
F A事業(百万円)	1,149	15.3
生産受託事業(百万円)	223	0.4
その他(百万円)	291	14.6
合計(百万円)	4,669	2.1

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
 2. 前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
S I C K A G	876	19.2	691	14.8

3. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

## 2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1)業績の状況

当第3四半期連結会計期間における世界経済は、米国経済の減速や、ヨーロッパの財政問題の長期化などにより、先行き不透明な状況で推移いたしました。

日本経済は、東日本大震災の混乱から回復傾向にあるものの、急速な円高や海外景気の下振れ懸念等により、特に輸出関連企業の業績が伸び悩み厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは「生産性倍増」を経営方針に掲げ、経費抑制を軸とする効率化を徹底するとともに、新市場の開拓や、新製品の拡販等による既存市場の活性化に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は、46億69百万円と前年同期に比べ2.1%の増収となりました。

利益面につきましては、営業利益は5億6百万円（前年同期比3.8%増）、為替差損等の営業外費用が前年同期に比べ増加したこともあり、経常利益は4億78百万円（前年同期比5.8%減）となりました。また、四半期純利益につきましては、税金費用が前年同期に比べ減少したこともあり、3億9百万円（前年同期比26.5%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

当社グループは、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分の変更を行っております。セグメント情報の開示における事業区分に関連する事項については、「第5 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

なお、前年同期比較にあたっては、前年同四半期連結会計期間分を変更後のセグメントに組み替えて行っております。

#### センシング事業

当社グループの主力事業であるセンシング事業は、売上高30億6百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益3億65百万円（前年同期比55.9%増）となりました。

防犯関連につきましては、急速な円高の影響を受けながらも世界市場でも高いシェアを有する屋外警戒用の防犯センサが、主力のヨーロッパ市場を中心に堅調に推移したことや、光ファイバー侵入検知システムが、北米及びアジア市場において堅調に推移したこと等により、売上高19億72百万円（前年同期比4.7%増）となりました。

自動ドア関連につきましては、主力の国内市場において、自動ドアの設置台数が堅調に推移したことに伴い、自動ドア用センサの販売が好調に推移したことや、海外においても欧米の自動ドア用センサ市場において着実にシェアを伸張したことにより、売上高8億20百万円（前年同期比14.9%増）となりました。

#### F A事業

F A事業は、主要市場であるヨーロッパにおいて、財政・金融不安を背景とした景気の下振れ懸念の影響もあり、汎用機器を中心に需要が減少いたしました。その結果、売上高11億49百万円（前年同期比15.3%減）、営業利益1億2百万円（前年同期比46.7%減）となりました。

#### 生産受託事業

中国における生産受託事業は、円高の影響を受けたものの、受託製品数量が増加し、その結果、売上高は2億23百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益54百万円（前年同期比21.1%減）となりました。

なお、生産受託事業の営業利益については、セグメント間の内部売上の影響を多分に受けるため、当該内部売上が減少したことにより、営業利益は前年同期に比べ減少幅が大きくなっております。

<参考>

・海外売上高

当第3四半期連結会計期間（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	511	1,645	687	191	3,037
連結売上高（百万円）	-	-	-	-	4,669
海外売上高の連結売上高に占める割合（%）	11.0	35.2	14.7	4.1	65.0

（注）1．地域は、地理的の近接度により区分しております。

2．各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 ..... 米国、カナダ
- (2) ヨーロッパ ... ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア
- (3) アジア ..... 中国、香港、台湾、韓国
- (4) その他 ..... オセアニア、アフリカ、南米

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高（ただし、セグメント間の内部売上高を除く）であります。

当第3四半期連結累計期間（自平成23年1月1日至平成23年9月30日）

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	1,371	5,131	1,901	627	9,032
連結売上高（百万円）	-	-	-	-	13,993
海外売上高の連結売上高に占める割合（%）	9.8	36.7	13.6	4.5	64.5

（注）1．地域は、地理的の近接度により区分しております。

2．各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 ..... 米国、カナダ
- (2) ヨーロッパ ... ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア
- (3) アジア ..... 中国、香港、台湾、韓国
- (4) その他 ..... オセアニア、アフリカ、南米

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高（ただし、セグメント間の内部売上高を除く）であります。

（2）キャッシュ・フローの状況

（百万円）

	当第3四半期連結会計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	451
投資活動によるキャッシュ・フロー	622
財務活動によるキャッシュ・フロー	248
現金及び現金同等物に係る換算差額	190
現金及び現金同等物の増減額	610

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、第2四半期連結会計期間末と比較して6億10百万円減少し54億22百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は4億51百万円(前年同期は3億87百万円の獲得)となりました。これは主にたな卸資産の増加(1億30百万円)による資金の減少があったものの、売上債権の減少(2億32百万円)及び税金等調整前四半期純利益を4億58百万円確保したことにより資金増加となったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は6億22百万円(前年同期は4億33百万円の使用)となりました。これは主に資金運用に伴う有価証券並びに投資有価証券の取得・売却(差引支出5億14百万円)及び有形固定資産の取得による支出(86百万円)によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は2億48百万円(前年同期は2億17百万円の使用)となりました。これは主に配当金の支払(2億25百万円)によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

世界経済や為替動向は先行き不透明な状態が続いており、当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況にあります。このような環境下、今後ますます市場の拡大が期待できるロシア連邦において、防犯関連事業の一層の拡大と強化を図るため、モスクワに当社100%出資の連結子会社を設立することといたしました。

今後も相対的に高い成長が見込まれる新興国市場攻略のため、現地特有のニーズを素早く掌握し、「安全・安心・快適」を核とした競争力のある製品を積極的に展開することにより、更なる事業の拡大を目指してまいります。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4億13百万円であります。なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、除却、売却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	16,984,596	16,984,596	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	16,984,596	16,984,596	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	16,984,596	-	2,798	-	3,649

#### (6)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 424,300 (相互保有株式) 普通株式 28,600	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,388,400	163,884	同上
単元未満株式	普通株式 143,296	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	16,984,596	-	-
総株主の議決権	-	163,884	-

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) オプテックス株式会社	滋賀県大津市におの浜四丁目7番5号	424,300	-	424,300	2.50
(相互保有株式) オフロム株式会社	福井県福井市三留町72-10	28,600	-	28,600	0.17
計	-	452,900	-	452,900	2.67

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成23年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	1,254	1,255	1,220	1,197	1,162	1,085	1,064	1,002	1,034
最低(円)	1,114	1,139	906	1,013	1,010	973	989	913	875

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,094	6,343
受取手形及び売掛金	3,657	3,717
有価証券	1,846	1,182
商品及び製品	1,726	1,579
仕掛品	90	59
原材料及び貯蔵品	962	830
繰延税金資産	468	399
その他	884	462
貸倒引当金	25	29
流動資産合計	14,706	14,545
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,210	1,264
機械装置及び運搬具(純額)	189	198
工具、器具及び備品(純額)	285	264
土地	1,203	1,203
建設仮勘定	17	5
有形固定資産合計	2,906	2,936
無形固定資産		
のれん	113	175
その他	433	465
無形固定資産合計	547	641
投資その他の資産		
投資有価証券	2,531	2,159
繰延税金資産	777	779
その他	347	389
貸倒引当金	48	46
投資その他の資産合計	3,608	3,281
固定資産合計	7,062	6,859
資産合計	21,768	21,405

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	942	798
短期借入金	164	203
未払法人税等	372	456
繰延税金負債	4	9
賞与引当金	205	75
役員賞与引当金	10	-
その他	601	685
流動負債合計	2,302	2,228
固定負債		
繰延税金負債	69	77
再評価に係る繰延税金負債	6	6
退職給付引当金	779	734
役員退職慰労引当金	447	416
その他	16	17
固定負債合計	1,319	1,252
負債合計	3,621	3,480
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,798	2,798
資本剰余金	3,653	3,653
利益剰余金	12,714	12,318
自己株式	538	537
株主資本合計	18,628	18,232
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	60	37
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1,582	1,379
評価・換算差額等合計	1,633	1,406
新株予約権	3	4
少数株主持分	1,148	1,094
純資産合計	18,147	17,925
負債純資産合計	21,768	21,405

( 2 ) 【 四半期連結損益計算書 】  
 【 第 3 四半期連結累計期間 】

( 単位 : 百万円 )

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年 9月30日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年 9月30日)
売上高	12,736	13,993
売上原価	6,179	6,740
売上総利益	6,557	7,252
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 5,312	5,814
営業利益	1,244	1,438
営業外収益		
受取利息	67	56
持分法による投資利益	14	19
受取賃貸料	11	14
保険返戻金	-	57
その他	48	49
営業外収益合計	141	197
営業外費用		
支払利息	2	2
為替差損	85	64
賃貸費用	14	14
投資事業組合運用損	27	8
その他	4	5
営業外費用合計	133	94
経常利益	1,252	1,540
特別利益		
固定資産売却益	2	4
持分変動利益	-	0
投資有価証券売却益	0	0
貸倒引当金戻入額	0	-
特別利益合計	3	4
特別損失		
固定資産除却損	9	4
投資有価証券評価損	1	18
投資有価証券償還損	10	-
減損損失	<sup>2</sup> 26	-
特別損失合計	48	23
税金等調整前四半期純利益	1,208	1,521
法人税、住民税及び事業税	444	604
法人税等調整額	0	71
法人税等合計	443	533
少数株主損益調整前四半期純利益	-	987
少数株主利益	97	94
四半期純利益	666	892

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
売上高	4,571	4,669
売上原価	2,294	2,238
売上総利益	2,277	2,431
販売費及び一般管理費	1,789	1,924
営業利益	487	506
営業外収益		
受取利息	23	22
持分法による投資利益	11	4
受取賃貸料	3	4
その他	6	16
営業外収益合計	44	48
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	15	68
賃貸費用	2	5
投資事業組合運用損	6	1
その他	0	1
営業外費用合計	24	76
経常利益	507	478
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2	0
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産除却損	7	2
投資有価証券評価損	0	18
投資有価証券償還損	10	-
特別損失合計	18	21
税金等調整前四半期純利益	486	458
法人税、住民税及び事業税	205	171
法人税等調整額	11	49
法人税等合計	193	121
少数株主損益調整前四半期純利益	-	336
少数株主利益	48	27
四半期純利益	244	309



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,208	1,521
減価償却費	354	329
のれん償却額	32	32
退職給付引当金の増減額(は減少)	35	44
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	30	31
貸倒引当金の増減額(は減少)	6	1
賞与引当金の増減額(は減少)	137	130
受取利息及び受取配当金	80	72
支払利息	2	2
為替差損益(は益)	10	0
持分法による投資損益(は益)	14	19
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	0	18
投資有価証券償還損益(は益)	10	-
固定資産除売却損益(は益)	6	0
減損損失	26	-
売上債権の増減額(は増加)	263	54
たな卸資産の増減額(は増加)	689	387
仕入債務の増減額(は減少)	324	261
その他	174	150
小計	1,300	1,685
利息及び配当金の受取額	78	77
利息の支払額	2	0
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	107	683
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,484	1,079
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	1,845	1,528
有価証券の売却及び償還による収入	1,928	1,397
投資有価証券の取得による支出	860	937
投資有価証券の売却による収入	170	21
有形固定資産の取得による支出	159	247
有形固定資産の売却による収入	5	8
無形固定資産の取得による支出	16	47
事業譲受による支出	396	-
貸付けによる支出	15	18
貸付金の回収による収入	10	10
その他	-	25
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,179	1,316

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	168	28
長期借入金の返済による支出	6	-
少数株主からの払込みによる収入	-	4
配当金の支払額	473	474
少数株主への配当金の支払額	28	51
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	339	549
現金及び現金同等物に係る換算差額	243	133
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	278	920
現金及び現金同等物の期首残高	6,447	6,343
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,169	5,422

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
会計処理基準に関する事項の変更	資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。 なお、これによる損益への影響はありません。

【表示方法の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
(四半期連結損益計算書)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
(四半期連結損益計算書)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1. 一般債権の貸倒見積高の算定方法	当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。
2. 棚卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算定に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法によっております。
3. 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
4. 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	当第3四半期連結累計期間における法人税等の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。 また、一部の重要性の乏しい連結子会社については、上記に替えて、税引前四半期純利益に前連結会計年度末の損益計算書における税効果会計適用後の法人税等の負担率を乗じて算定しております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、且つ一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年12月31日)
有形固定資産の減価償却累計額は、5,633百万円であり ます。	有形固定資産の減価償却累計額は、5,590百万円であり ます。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)																																
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>役員報酬及び従業員給与</td> <td>1,804百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>役員賞与引当金繰入額</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>1,099</td> </tr> </table> <p>2 減損損失            当第3四半期連結累計期間において、当社グループは、以下の資産について減損損失を計上いたしました。            減損損失を認識した資産</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> <th>減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業用資産</td> <td>ソフトウェア</td> <td>-</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table> <p>減損損失の認識に至った経緯            取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益を見込めなくなったことから減損損失を認識しております。            回収可能性の算定方法            回収可能性の算定方法は正味売却価額により算定しております。</p>	役員報酬及び従業員給与	1,804百万円	賞与引当金繰入額	133	退職給付費用	68	役員賞与引当金繰入額	10	役員退職慰労引当金繰入額	30	研究開発費	1,099	用途	種類	場所	減損損失 (百万円)	事業用資産	ソフトウェア	-	26	<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>役員報酬及び従業員給与</td> <td>2,085百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>役員賞与引当金繰入額</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>1,162</td> </tr> </table>	役員報酬及び従業員給与	2,085百万円	賞与引当金繰入額	103	退職給付費用	79	役員賞与引当金繰入額	10	役員退職慰労引当金繰入額	31	研究開発費	1,162
役員報酬及び従業員給与	1,804百万円																																
賞与引当金繰入額	133																																
退職給付費用	68																																
役員賞与引当金繰入額	10																																
役員退職慰労引当金繰入額	30																																
研究開発費	1,099																																
用途	種類	場所	減損損失 (百万円)																														
事業用資産	ソフトウェア	-	26																														
役員報酬及び従業員給与	2,085百万円																																
賞与引当金繰入額	103																																
退職給付費用	79																																
役員賞与引当金繰入額	10																																
役員退職慰労引当金繰入額	31																																
研究開発費	1,162																																

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)																								
<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>役員報酬及び従業員給与</td> <td>549百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>役員賞与引当金繰入額</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>377</td> </tr> </table>	役員報酬及び従業員給与	549百万円	賞与引当金繰入額	84	退職給付費用	23	役員賞与引当金繰入額	6	役員退職慰労引当金繰入額	8	研究開発費	377	<p>販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr> <td>役員報酬及び従業員給与</td> <td>723百万円</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>役員賞与引当金繰入額</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td>413</td> </tr> </table>	役員報酬及び従業員給与	723百万円	賞与引当金繰入額	66	退職給付費用	26	役員賞与引当金繰入額	2	役員退職慰労引当金繰入額	9	研究開発費	413
役員報酬及び従業員給与	549百万円																								
賞与引当金繰入額	84																								
退職給付費用	23																								
役員賞与引当金繰入額	6																								
役員退職慰労引当金繰入額	8																								
研究開発費	377																								
役員報酬及び従業員給与	723百万円																								
賞与引当金繰入額	66																								
退職給付費用	26																								
役員賞与引当金繰入額	2																								
役員退職慰労引当金繰入額	9																								
研究開発費	413																								

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (百万円)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借 対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 5,732	現金及び預金勘定 5,094
有価証券勘定に含まれる現金同等物 436	有価証券勘定に含まれる現金同等物 327
現金及び現金同等物 6,169	現金及び現金同等物 5,422

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 16,984,596株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 433,022株

3. 新株予約権等に関する事項

ストック・オプションとしての新株予約権

新株予約権の四半期連結会計期間末残高 3百万円(親会社 - 百万円、連結子会社 3百万円)

4. 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月26日 定時株主総会	普通株式	248	15	平成22年12月31日	平成23年3月28日	利益剰余金
平成23年8月3日 取締役会	普通株式	248	15	平成23年6月30日	平成23年9月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

当グループにおける電子機器関連事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高及び営業利益の合計額に占める割合がそれぞれ90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

当グループにおける電子機器関連事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高及び営業利益の合計額に占める割合がそれぞれ90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	3,108	464	595	402	4,571	-	4,571
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	854	-	0	929	1,783	1,783	-
計	3,963	464	595	1,331	6,355	1,783	4,571
営業利益又は営業損失( )	390	1	19	93	503	15	487

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 ..... 米国
- (2) ヨーロッパ ... イギリス、フランス、ポーランド、オランダ
- (3) アジア ..... 中国、香港、台湾、韓国

前第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	8,611	1,245	1,900	978	12,736	-	12,736
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,235	-	4	2,416	4,656	4,656	-
計	10,846	1,245	1,904	3,395	17,392	4,656	12,736
営業利益	1,008	7	74	196	1,286	41	1,244

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 本邦以外の区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米 ..... 米国
- (2) ヨーロッパ ... イギリス、フランス、ポーランド、オランダ
- (3) アジア ..... 中国、香港、台湾、韓国

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成22年7月1日至平成22年9月30日）

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	367	1,737	680	212	2,997
連結売上高（百万円）	-	-	-	-	4,571
海外売上高の連結売上高に占める割合（％）	8.0	38.0	14.9	4.6	65.6

- （注）1．地域は、地理的近接度により区分しております。
- 2．各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。
- （1）北米 …………… 米国、カナダ
  - （2）ヨーロッパ …… ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア
  - （3）アジア …………… 中国、香港、台湾、韓国
  - （4）その他 …………… オセアニア、アフリカ、南米
- 3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高（ただし、セグメント間の内部売上高を除く）であります。

前第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年9月30日）

	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	計
海外売上高（百万円）	1,056	4,895	1,660	636	8,249
連結売上高（百万円）	-	-	-	-	12,736
海外売上高の連結売上高に占める割合（％）	8.3	38.4	13.0	5.0	64.8

- （注）1．地域は、地理的近接度により区分しております。
- 2．各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。
- （1）北米 …………… 米国、カナダ
  - （2）ヨーロッパ …… ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア
  - （3）アジア …………… 中国、香港、台湾、韓国
  - （4）その他 …………… オセアニア、アフリカ、南米
- 3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高（ただし、セグメント間の内部売上高を除く）であります。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスの種類別に事業を展開しており、「センシング事業」、「F A事業」及び「生産受託事業」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品群及びサービスは次のとおりであります。

セグメントの名称	主な製品群及びサービス
センシング事業	防犯関連、自動ドア関連、計測関連、交通関連
F A事業	ファクトリーオートメーション関連
生産受託事業	電子機器受託生産サービス

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	センシング 事業	F A事業	生産受託 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,966	3,544	459	12,969	1,023	13,993	-	13,993
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17	-	2,154	2,172	34	2,207	2,207	-
計	8,984	3,544	2,614	15,142	1,058	16,200	2,207	13,993
セグメント利益	867	408	69	1,344	81	1,426	11	1,438

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、客数情報システム・電子部品の開発及び販売、スポーツクラブの運営等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額11百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	センシング 事業	F A事業	生産受託 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	3,006	1,149	223	4,378	291	4,669	-	4,669
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6	-	772	779	14	794	794	-
計	3,012	1,149	995	5,157	306	5,463	794	4,669
セグメント利益又は 損失( )	365	102	54	521	22	498	8	506

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、客数情報システム・電子部品の開発及び販売、スポーツクラブの運営等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額8百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
当第3四半期連結会計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)  
(固定資産に係る重要な減損損失)  
該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)  
該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)  
該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。

(金融商品関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)  
前連結会計年度末と比べて著しい変動がないため記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)  
前連結会計年度末と比べて著しい変動がないため記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)  
前連結会計年度末と比べて著しい変動がないため記載を省略しております。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)  
該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)  
該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)  
前連結会計年度末と比べて著しい変動がないため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)  
前連結会計年度末と比べて著しい変動がないため、記載を省略しております。

( 1株当たり情報 )

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)		前連結会計年度末 (平成22年12月31日)	
1株当たり純資産額	1,026.78円	1株当たり純資産額	1,016.57円

2. 1株当たり四半期純利益金額等

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	40.27円	1株当たり四半期純利益金額	53.94円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	53.92円

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(百万円)	666	892
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	666	892
期中平均株式数(千株)	16,552	16,551
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(百万円)	-	0
(うち少数株主利益)	(-)	(0)
普通株式増加数(千株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 14.77円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。	1株当たり四半期純利益金額 18.68円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 18.67円

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(百万円)	244	309
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	244	309
期中平均株式数(千株)	16,552	16,551
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(百万円)	-	0
(うち少数株主利益)	(-)	(0)
普通株式増加数(千株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)  
 該当事項はありません。

(リース取引関係)  
 当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)  
 前連結会計年度末と比べて著しい変動がないため記載を省略しております。

## 2【その他】

平成23年8月3日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....248百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....15円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年9月5日

(注) 平成23年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月8日

オブテックス株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石田 昭 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 関口 浩一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオブテックス株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オブテックス株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月10日

オプテックス株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石田 昭 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 関口 浩一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオプテックス株式会社の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オプテックス株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。